

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470201177	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成17年5月1日	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社			
事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田			
所在地	(221-0864)			
	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2975-75			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	18名	
		通い定員	0名	
		宿泊定員	18名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和2年11月4日	評価結果	令和3年4月19日	
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームが、力を入れておりますのが、認知症ケアと機能訓練です。認知症専門施設として特化したホームでありたいと、コグニサイズを含め、脳トレを毎日実施しています。地域や業界からの知名度も上がって来ていると思います。コグニサイズにつきましては5年前からの取り組みが定着しており、何よりも入居者様にとって認知症予防を中心として活気のある生活が送れていることに評価を頂いております。生活機能向上連携として昨年の5月からPTの訪問が始まり、専門的見地からの助言を頂きプランに反映しています。この度「離職ゼロ賞」も頂き働きやすい職場であることと、入居者様に対し寄り添う時間の多さ、入居して良かったとのご家族様からの評価がスタッフの励みとやる気となっております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月28日	評価機関 評価決定日	令和3年4月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地下鉄ブルーライン「片倉町」駅下車徒歩9分です。階段を上がり竹林や梅林、キャベツ畑を通り抜け、緩やかな下り坂の中腹にある2階建て2ユニットのグループホームです。

<優れている点>

認知症ケアを正しく理解し、先進的な介護を目指すという法人の理念を踏まえて、事業所の理念を作成しています。コグニサイズや脳トレなど、レクリエーションを通じた個別ケアをとり入れ、楽しく取り組んでいます。無理なく体を動かしながら脳に刺激することによって、認知機能を鍛えています。入居者は、自分らしく生き生きとした毎日をご過ごししており、法人で行ったアンケートでは家族の満足度が高い結果となっています。事業所の理念である「どこよりも入居したくなるホーム」という事を実践しています。職員は、向上心と感謝の心を持って支援しています。

<工夫点>

自治会主催の祭りに参加したり、事業所の祭りに近隣住民を招待するなど、地域の人と関わりを積極的にもっています。地域住民の介護相談を随時受け付け、地域との交流に取り組んでいます。避難訓練には地域住民の参加もあります。オーナーや近隣協力者から、有事の際には炊き出しの声もあがるなど協力体制が出来ています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「どこよりも入居したくなるホーム」をホームの理念として、地域で選ばれるホームになりたいという思いを形にして行く努力をスタッフとしています。他ホームにはない取り組みとスタッフ各々の熱い思いを居宅や老健に発信しています。	認知症ケアを正しく理解し、先進的な介護を目指すという法人の理念を踏まえて、事業所の理念を作成しています。コグニサイズや脳トレなどレクリエーションを通じた個別ケアをとり入れ、楽しく取り組んでいます。職員は、日々の業務の中で理念に立ち返っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響下、日常的な地域交流が激減してしまいました。手芸やマージャンサークルも自粛です。今やれることは地域清掃くらいなので入居者様と夏は水撒き、最近では近隣の枯葉の清掃を始めました。	自治会に加入しています。回覧板が回ってくると、入居者が職員と共に次の家へ渡しに行っています。自治会の行事に参加したり、事業所の祭りに近隣住民を招待するなど、地域の人と関わりを積極的にもっています。地域住民の介護相談を随時受け付けて地域との交流に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアについての専門施設として地域に向けてコグニサイズを広める活動を行っている。地域に向けて認知症ケアの相談窓口になっている。定期的に認知症サポーター養成講座を毎年2回以上開いている。(コロナ禍により自粛中)	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により会議を注視しているが活動報告とご家族様からのご意見ご要望を形にする努力をしており、その結果の報告も行っている。行政へも書面で運営活動報告は行っている。	コロナ禍で外部接触を避けているため、書面にて運営推進会議を行っています。メンバーは、自治会代表、地域包括職員、家族です。コロナ自粛前は、20名ほどの参加がありましたが、現在は、メールや電話で参加メンバーから率直な意見をもらい、サービスの質の向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括とのつながりはあるが、横浜市とは日常的に密に取っている方ではないが、新型コロナウイルスの防疫に関するマスクやアルコール等協力を頂いた。今後は更に能動的に協力関係が築ける様、課題として努力して行きたい。	活動状況の報告や介護保険の手続き、介護記録の電子化に関する相談など、行政と連携しています。横浜市より防疫備品が配られた折には、感謝の意を伝える電話をしています。区役所に利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、情報を共有し、積極的に関わりを持つよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が「身体拘束」になるケアについての研修を入社時に実施しています。その後も定期的に年4回の研修と、身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月に1度委員会を開催し注意喚起をしています。忘れないように、身体拘束についての研修とチェックは頻度は高いと思います。	3ヶ月に1度の「身体拘束廃止委員会」で、全職員が日常のケアが拘束になっていないか細かく振り返りをしています。「高齢者虐待と身体拘束」「身体拘束Q&A」「虐待・不適切ケアチェックリスト」を使用し、正しく理解しています。定期的に身体拘束に関する研修を行い職員の徹理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と並んで、全職員が定期的に研修を受ける頻度は高いです。日常の情報共有と共にスタッフ同士が注意し合える関係性を保っています。ストレスを溜めない思考回路を作るもの見方とサポートをしています。虐待は犯罪である事を全職員が認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に、弁護士を後見人としてを立てた入居者様がおられたため、金銭管理を含め、後見人制度について知る機会が出来た。また、選挙の投票等ご家族対応にて実施できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結は重要事項説明書に時間をかけて説明しています。改定時には本社からのサポートもあり、疑問や質問に丁寧に対応しています。ご理解頂いてもその点についてのご意見は真摯に受け止め良好な関係性は存続しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍により、面会の自粛を始め、外部との接点（訪問マッサージ、傾聴ボランティア等）が中止されることも含めご家族、外部の方に理解を頂きべく書面で発信している。面会に関してはリモート面会を推進し、実施のご家族が増えている現状である。	家族の訪問時や電話での連絡で意見や要望を聞いています。現在は、コロナ感染防止対策のため、リモート面会や書面にて意見を伺う配慮をしています。家族から本人の生活のリズムや身体機能についての要望が出され、対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議、ユニット会議は勿論のこと、運営に関して全員が参加している環境であると感じている。提案も多く、スタッフの行動力がありすぐに実施できる環境を作っている。コスト管理も意識を高く持っている。ホームの特色を輝かせようと努力している。	運営に関する法人の新しい取り組みや方針をその都度、職員に伝えています。会議では、活発に話し合いが行われています。管理者は、普段から相談しやすい雰囲気を作るよう心掛けています。現場職員の意見を取り入れ、働きやすい職場として法人から「離職ゼロ」賞をもらっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ評価制度が導入され、半年に1度の評価があり、給与アップされたスタッフがいます。評価項目を知ることで努力、実績が反映される体制になっています。スタッフ満足度も高く前期は「離職ゼロ賞」を頂きました。職場環境はとても良いと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内での研修が資格や経験に応じて、年間スケジュールに組み込まれ開催しており、職員を育てる仕組みは出来ています。実務者研修等、資格支援制度（補助金）があります。特に当ホームについては職員育成の体制が良く整っており新卒を毎年受け持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年の初めまでは、地域で年代別の交流会やサービス付き高齢者住宅等の相互訪問を目標とし実施していました。コロナが収束したら再開する予定です。また、営業を通し相互訪問は少しずつ実施できています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初日にはブーケを準備して大歓迎しています。最初の段階でアセスメントをしっかりと取っており、初日には既にご本人と面識がある様な雰囲気を持って対応する事で自分を知っている人がホームに居る安心感を持って下さる。居室担当者も付いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族の要望を取り込んだ計画を立てています。初期の段階では、ホームに慣れるかどうかをほとんどの方が心配される為、上記の様なアプローチを取る事や入居後初日から数日間には要望があれば電話にて報告させて頂き安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期プランにてホームに慣れて頂く様、支援しながらも、その時点での必要となる支援を抽出できる様、観察しています。初期には記録も細やかに記すようにしています。その中で必要なサービスを見極め次回プランに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と共に衣食住を含め日常の暮らしの中で生活に必要な作業を共に行っています。スタッフの手伝いを通しやりがいと居場所を作っています。共存する意識は培えていると思います。また、相談事を持ちかけたり等、人生の先輩として職員が入居者様を頼りにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	最善のケアをする為にはご家族様のご意見が的確であることも多く、助言を頂いています。ご家族様満足度において全国3位と、過去最高を頂いた事も関係性は良いと感じています。ホームを盛り上げたい気持ちはご家族と共にあると実感しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍が影響してはいますが、その中でもできることを行っています。本人にとって馴染みの方には手紙やハガキを書いて頂いたり、面会が自粛されてしまった中、リモートでの面会や電話の頻度を増やしています。	友人や知人が来訪した時は、居室などで湯茶の接待をしています。現在は、コロナ感染防止対策のため、面会の代わりに手紙や電話の支援を増やし馴染みの人との関係継続を働きかけています。馴染みの場所や習慣の把握には、家族からの情報や入居時のアセスメントを活用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合いそうな入居者様同士、隣席にしたり、職員が関わりを仲介し仲間意識を持つ事で良い関係性が保てる様、努めています。居室で過ごすことがお好きな方も時間を見てリビングでお茶やレクリエーションにお誘いし出来るだけ関りを持って頂く様支援します。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養等に移転された後にも面会等を通じ、関係性を大切にしています。実際にお電話を頂き、相談に乗ったりしています。移転されたご家族様からはいつも感謝のお言葉や入居して良かったとの賞賛を頂いていることがスタッフにも何よりの励みとなっています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通しご本人の希望等は常に把握しており実現に向けて務めています。その他の意向について表現が困難な場合は選択肢を提示し意向を汲み取る努力もしています。	入居者と日々の関わり合いの中で、本人の思いを把握するために会話を多くすること心がけています。意思疎通が難しい場合は、質問をクローズドクエスチョンにしたり、本人の表情などから把握しています。毎日の申し送り時や連絡ノートにより職員全員で共有し、会議で提案しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	見学時やご入居前のアセスメントをしっかり取るように努めています。また、アセスメント用紙をお渡しして生活歴や環境、趣味嗜好の把握を出来るだけ多く収集し、良いケアプランに繋げる努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日2回の申し送りにて一人一人の心身の状態の把握と経過観察が出来ていると思います。殆ど居室に引きこもる事が無く一日のスケジュールにほぼ寄り添い、過ごし方の把握も変化も見つけやすいです。入居者様とスタッフの距離感は近いと思います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族には電話にてケアについて話をさせて頂いており日常にご家族の意向は汲み取っていると思います。面会の少ないご家族には電話で報連相をしています。医療機関関係者にはこの時期電話等にて積極的に意見を頂いています。	本人と家族の意見を聴いてから介護計画を作成しています。医師や看護師の助言をとり入れ、職員間で話し合った意見を反映させています。モニタリングは、毎日実施し、定期的に短期目標の総括および評価を行うことにより、現状に沿った本人本位の介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に反映しやすい様、ケアプランファイルを置き、いつでもサービス内容が確認でき、実施しやすいようにしています。今年の9月から電子記録に移行しプラン内容もタグ付けすることにより情報共有や実施の情報が共有しやすくなりました。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が外部の通院対応が困難な時には代行しています。今はコロナ禍で難しくなりましたが、趣味のサークル活動に同行するなど個別ケアにも尽力していました。地域の介護相談にも乗っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活機能向上を目指す目的として、市内の整形外科の理学療法士に入居者様のプラン目標と実際のサービスの支援内容の助言と指導のもと、サービスを提供しています。スタッフに実践力もあり、身体機能の向上は表れています。安全で豊かな生活を楽しむ大きな協働だと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医の選択は家族が納得して契約しています。日常的に心身の様子と受診結果や体調の報告を家族と主治医との報連相の上、適切な医療が受けられています。薬の調整や専門医への受診等も本人家族との協議が成されています。	本人、家族の同意を得て、月2回協力医の往診を受けています。訪問看護師は週1回、医療連携や日常の健康管理の助言をしています。皮膚科、眼科など専門医受診や検査が必要と診断された時は、基本、家族対応です。訪問歯科は月4回口腔ケアを行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診医や往診看護師、訪問看護師との連携は取れています。入居者様に日常の変化があればいつでも相談しやすく、適切なアドバイスを頂けており、外部受診の指示のタイミングも適切であると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが付き添うか、ご家族対応の場合でも情報の細かい交換をしています。入居者様に安心して頂く為に面会にて医療情報をまめに頂き経過によっては早期退院に向け寝たきりや歩行低下を避けています。病院への営業にて関係作りも努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の指針について書面にてお伝えしています。主治医、家族と話し合いをし、必要な処置（ハード面、薬物療法等）を講じている準備はあります。看取りの研修等も行っており、ギリギリまでホームにてケアしている状況です。	重度化した場合の方針や支援内容を説明し、同意を得ています。終末期の状況に応じて主治医、家族と話し合い、方針を共有しています。看取りの実績はありませんが、最大限のケアに努めています。終末期や看取りに関するマニュアルを整備し、研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の防災訓練時に消防署の協力を得て緊急対応でや心肺蘇生法AEDの使用法を全職員が訓練を受講しています。それらを含む、緊急時の対応の研修はホーム会議でも行っており全職員が対応できる様支援しています。新人スタッフは早期に訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て設備点検や消化器に使い方は熟知しており、避難訓練も頻繁に行っている。10月の訓練時にはオーナーを始め、近隣の方々と協力し合える体制と、ホーム側も非常食等の提供ができる体制にある事や避難所として提供できる事等を近隣の方へ発信しています。	年2回夜間と日中想定避難訓練をしています。消防署指導の下、地域住民の参加もあります。事業所オーナーや近隣協力者から、有事の際には炊き出しの声もあがるなど、協力体制が出来ています。備蓄は食料や飲料水4日分、簡易トイレ、コンロなどリスト管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様に対し人生の先輩としての敬意を忘れぬ様、配慮した上で当人にとって丁度良いと思っ下さる距離感を計りながら接しています。トイレ誘導時の声掛けもさりげなく行い、入浴介助も出来る限り同性介助を心掛けプライバシーを尊重しています。	人権擁護の法人内研修を実施しています。生活リズムを大切に、プライバシー確保の意識を高めています。言葉遣いには特に注意を払い親しみを込めつつ誇りを損ねない対応、過剰にならない支援、羞恥心に配慮しています。個人情報書庫で施錠管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が難しくなられた方には選択肢を挙げて試みる等しています。時には「オープン・クローズド」の質問形式など対応を変えて質問し自己決定の機会を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	多くの方は自己管理が困難となった方であるので、その方には、何をしたらよいか混乱する前に行動パターンの選択肢をこちらから提供する形を取る場合もあります。ご本人のペースは尊重し急がせたりは絶対せずに居室で過ごしたい希望も尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様は女性が多く、まだまだオシャレを楽しんで頂き、常に綺麗にして頂きたいというスタッフの思いもあることからメイク道具等を並べて楽しんだり実際に一緒にメイクをさせて頂く機会も多くあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昔、作った「すいとん」を作ってもらったり、「息子が好きだった餃子」を作る機会を持っています。食事の準備や後片付けも出来る方にはプランに入って支援しています。玉ねぎの皮むき、ニンジンの皮むきは入居者様にやって頂く事が多いです。	栄養士作成の献立と調理専門職員が調理しています。栄養管理日誌で衛生面も管理しています。味もよく健康面でも検査に良い結果が出ています。米研ぎや簡単な調理の手伝いをしています。外食は出来ませんが、栗ご飯や七草粥など季節の食事、時には料理を重箱に詰めて食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の水分量を細かく打ち込んでいます。不足しないように計算しています。入居者様の中には塩分制限や水分制限、嚥下機能低下した入居者様にはミキサー食で対応の方もおられますのでそれぞれに合った対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行っています。義歯の着脱、食べかす等の除去も介助や見守りで出来ています。口腔内の濯ぎも十分できていますが困難な方については介助して磨き直しをしています。デンタルにて週一で口腔ケアの依頼をしている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表からリズムを掴み、トイレ誘導し尿失禁を防ぐ事が出来ている方もおられます。尿意便意の無い方は時間を見て排泄のタイミングを見て誘導し、トイレでの排泄を支援しています。新入居者様の中にはリハパンを持って入居した方が現時点では使用せず布パンツに戻った方もおられます。	日々の排泄記録を活用しています。完全自立の入居者は少ないですが、定時、随時のさり気ない声掛けでトイレ誘導し、自立に向けて支援しています。入居前に廃用症候群で寝たきりの人が、トイレで排泄出来るようになるなど、生活機能向上の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動量が多い方だと思います。体操、散歩、腹圧をかけるリハビリ体操、便秘解消体操をメニューに取り入れています。水分も小まめに提供し不足の無いようにし、食事のメニューにはヨーグルトも多く出しています。個別に腸マッサージもしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴の希望があれば入って頂いているが入浴があまり好きではない入居者様が多数の為、二日～三日に一度は入れるように組んでいます。入浴剤等を工夫して楽しんで頂いています。個々に応じ介助量も調整し安全に配慮しながら自立支援しています。	入浴は週2～3回。職員の多い時間帯で本人の希望があれば叶えるようにしています。介護度の高い人は二人で対応し、安全に配慮しています。入浴拒否の場合は興味のある話をし声掛けに工夫をしています。入浴剤、季節のゆず湯、菖蒲湯を提供しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床前のゆったりとした時間が持てるように配慮しています。テレビ鑑賞の時間も尊重しています。夜間も巡回や近くに居る事を伝え安心して頂き、程良い空調で安眠できる様にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	命を預かる者として入居者様の処方内容は職員全員が把握できる様往診記録に細かく記しており説明書も常に見える場所にファイルし確認しています。変更があった場合の症状の細かい記録もし、誤薬が無い様に三重チェック確認の上服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で力を発揮する事で「出来る」と言う自信が付き役に立っていると思え生きる力となっておられる。感謝の気持ちを口にする事で張り合いを持って頂いています。ご本人の趣味が発揮できる時間を設けております。ドライブや外出外食が気分転換になっていると思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援に関しては、コロナ禍による影響は大きいと思います。未だ自粛している状況です。出来る範囲で戸外に出向き季節を感じて頂く支援は頻繁に行っています。	コロナ禍で外出は控えてますが、天気の良い日は外気浴を実施、施設外周の散歩コースはいくつもあり、毎日出かけ外気や緑、花を感じています。歩行不安定者が多いため1対1で対応しています。恒例化している行事は自粛、今後は車中から楽しむイベントを企画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現時点では、コロナの影響にて自粛しています。希望された方には玄関先の自動販売機にてジュース等を購入して頂く程度です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に一度のホーム便りの中にご本人からの手紙を一筆箋ですが入れてさせて頂いています。ご希望があればいつでもホームから電話が出来る環境にあります。個人携帯電話をお持ちの方もおられます。ご友人と文通されている方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム周辺は緑に囲まれており静かな環境にあります。季節の花を身近で感じる事もでき、玄関やホーム内の庭やフロアにも花がある環境。ホーム内の空調もほど良く陽当たりも良く居心地の良さが感じられます。16年目の建物としては綺麗に使っている方で、居室内の整備も努力しています。	共用空間は白を基調に淡い木目の床が広がり明るく清潔な環境です。リビングの壁にはイベントの写真や季節の作品を飾り、ソファを配置しています。大きなガラス戸がある回廊はテラスに面しています。空調と加湿器で温湿度を管理し十分な換気も実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他廊下や玄関、庭にもベンチやソファが置かれ、陽当たりのよい寛ぎの空間で庭の花を見ながらゆったり出来るようになっています。昼食後等はそこで入居者様同士が歓談する姿が毎日見られています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様とレイアウトを考えながら配置しています。仏壇をお持ちになっておられる方もおられます。プライバシーが尊重される個室であり、好きな時に居室で休んで頂けるようになっています。最近はいち慣れた家具をお持ちになる方が少なくなっています。	照明、エアコン、ベットが備え付けです。家具、仏壇、写真や絵など馴染みの物や、使い慣れた物を自由に持ち込み、動線を邪魔することなく配置しています。居室担当者が整理整頓を手伝い居心地よく過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの表記をし迷わず行ける様、工夫しています。食器の後片付け、洗面台の掃除、スタッフと一緒に床にクイックルワイパーを掛けて頂く等、自立支援しています。掃除道具置き場もわかるようにし、ご自身でお持ちになられます。		

事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
ユニット名	あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「どこよりも入居したくなるホーム」をホームの理念として、地域で選ばれるホームになりたいという思いを形にして行く努力をスタッフとしています。他ホームにはない取り組みとスタッフ各々の熱い思いを居宅や老健に発信しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響下、日常的な地域交流が激減してしまいました。手芸やマージャンサークルも自粛です。今やれることは地域清掃くらいなので入居者様と夏は水撒き、最近では近隣の枯葉の清掃を始めました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアについての専門施設として地域に向けてコグニサイズを広める活動を行っている。地域に向けて認知症ケアの相談窓口になっている。定期的に認知症サポーター養成講座を毎年2回以上開いている。(コロナ禍により自粛中)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により会議を注視しているが活動報告とご家族様からのご意見ご要望を形にする努力をしており、その結果の報告も行っている。行政へも書面で運営活動報告は行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括とのつながりはあるが、横浜市とは日常的に密に取っている方ではないが、新型コロナウイルスの防疫に関するマスクやアルコール等協力を頂いた。今後は更に能動的に協力関係が築ける様、課題として努力して行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が「身体拘束」になるケアについての研修を入社時に実施しています。その後も定期的に年4回の研修と、身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月に1度委員会を開催し注意喚起をしています。忘れないように、身体拘束についての研修とチェックは頻度は高いと思います。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と並んで、全職員が定期的に研修を受ける頻度は高いです。日常の情報共有と共にスタッフ同士が注意し合える関係性を保っています。ストレスを溜めない思考回路を作るものの見方とサポートをしています。虐待は犯罪である事を全職員が認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に、弁護士を後見人として立てた入居様がおられたため、金銭管理を含め、後見人制度について知る機会が出来た。また、選挙の投票等ご家族対応にて実施できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結は重要事項説明書に時間をかけて説明しています。改定時には本社からのサポートもあり、疑問や質問に丁寧に対応しています。ご理解頂いてもその点についてのご意見は真摯に受け止め良好な関係性は存続しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍により、面会の自粛を始め、外部との接点（訪問マッサージ、傾聴ボランティア等）が中止されることも含めご家族、外部の方に理解を頂きべく書面で発信している。面会に関してはリモート面会を推進し、実施のご家族が増えている現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議、ユニット会議は勿論のこと、運営に関して全員が参加している環境であると感じている。提案も多く、スタッフの行動力がありすぐに実施できる環境を作っている。コスト管理も意識を高く持っている。ホームの特色を輝かせようと努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ評価制度が導入され、半年に1度の評価があり、給与アップされたスタッフがいいます。評価項目を知ることで努力、実績が反映される体制になっています。スタッフ満足度も高く前期は「離職ゼロ賞」を頂きました。職場環境はとても良いと思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内での研修が資格や経験に応じて、年間スケジュールに組み込まれ開催しており、職員を育てる仕組みは出来ています。実務者研修等、資格支援制度（補助金）があります。特に当ホームについては職員育成の体制が良く整っており新卒を毎年受け持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年の初めまでは、地域で年代別の交流会やサービス付き高齢者住宅等の相互訪問を目標とし実施していました。コロナが収束したら再開する予定です。また、営業を通して相互訪問は少しずつ実施できています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初日にはブーケを準備して大歓迎しています。最初の段階でアセスメントをしっかり取り取り、初日には既にご本人と面識がある様な雰囲気を持って対応する事で自分を知っている人がホームに居る安心感は持って下さる。居室担当者も付いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族の要望を取り込んだ計画を立てています。初期の段階では、ホームに慣れるかどうかをほとんどの方が心配される為、上記の様なアプローチを取る事や入居後初日から数日間には要望があれば電話にて報告させて頂き安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期プランにてホームに慣れて頂く様、支援しながらも、その時点での必要となる支援を抽出できる様、観察しています。初期には記録も細やかに記すようにしています。その中で必要なサービスを見極め次回プランに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と共に衣食住を含め日常の暮らしの中で生活に必要な作業を共に行っています。スタッフの手伝いを通しやりがいと居場所を作っています。共存する意識は培えていると思います。また、相談事を持ちかけたり等、人生の先輩として職員が入居者様を頼りにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	最善のケアをする為にはご家族様のご意見が的確であることも多く、助言を頂いています。ご家族様満足度において全国3位と、過去最高を頂いた事も関係性は良いと感じています。ホームを盛り上げたい気持ちはご家族と共にあると実感しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍が影響してはいますが、その中でもできることを行っています。本人にとって馴染みの方には手紙やハガキを書いて頂いたり、面会が自粛されてしまった中、リモートでの面会や電話の頻度を増やしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合いそうな入居者様同士、隣席にしたり、職員が関わりを仲介し仲間意識を持つ事で良い関係性が保てる様、努めています。居室で過ごすことがお好きな方も時間を見てリビングでお茶やレクリエーションにお誘いし出来るだけ関りを持って頂く様支援します。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養等に移転された後にも面会等を通じ、関係性を大切にしています。実際にお電話を頂き、相談に乗ったりしています。移転されたご家族様からはいつも感謝のお言葉や入居して良かったとの賞賛を頂いていることがスタッフにも何よりの励みとなっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通しご本人の希望等は常に把握しており実現に向けて務めています。その他の意向について表現が困難な場合は選択肢を提示し意向を汲み取る努力もしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	見学時やご入居前のアセスメントをしっかり取るように努めています。また、アセスメント用紙をお渡しして生活歴や環境、趣味嗜好の把握を出来るだけ多く収集し、良いケアプランに繋げる努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日2回の申し送りにて一人一人の心身の状態の把握と経過観察が出来ていると思います。殆ど居室に引きこもる事が無く一日のスケジュールにほぼ寄り添い、過ごし方の把握も変化も見つけやすいです。入居者様とスタッフの距離感は近いと思います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族には電話にてケアについて話をさせて頂いており日常的にご家族の意向は汲み取っていると思います。面会の少ないご家族には電話で報連相をしています。医療機関関係者にはこの時期電話等にて積極的に意見を頂いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に反映しやすい様、ケアプランファイルを置き、いつでもサービス内容が確認でき、実施しやすいようにしています。今年9月から電子記録に移行しプラン内容もタグ付けすることにより情報共有や実施の情報が共有しやすくなりました。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が外部の通院対応が困難な時には代行しています。今はコロナ禍で難しくなりましたが、趣味のサークル活動に同行するなど個別ケアにも尽力していました。地域の介護相談にも乗っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活機能向上を目指す目的として、市内の整形外科の理学療法士に入居者様のプラン目標と実際のサービスの支援内容の助言と指導のもと、サービスを提供しています。スタッフに実践力もあり、身体機能の向上は表れています。安全で豊かな生活を楽しむ大きな協働だと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医の選択は家族が納得して契約しています。日常的に心身の様子と受診結果や体調の報告を家族と主治医との報連相の上、適切な医療が受けられています。薬の調整や専門医への受診等も本人家族との協議が成されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診医や往診看護師、訪問看護師との連携は取れています。入居者様に日常の変化があればいつでも相談しやすく、適切なアドバイスを頂けており、外部受診の指示のタイミングも適切であると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが付き添うか、ご家族対応の場合でも情報の細かい交換をしています。入居者様に安心して頂く為に面会にて医療情報をまめに頂き経過によっては早期退院に向け寝たきりや歩行低下を避けています。病院への営業にて関係作りも努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の指針について書面にてお伝えしています。主治医、家族と話し合いをし、必要な処置（ハード面、薬物療法等）を講じている準備はあります。看取りの研修等も行っており、ギリギリまでホームにてケアしている状況です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の防災訓練時に消防署の協力を得て緊急対応や心肺蘇生法AEDの使用法を全職員が訓練を受講しています。それらを含む、緊急時の対応の研修はホーム会議でも行っており全職員が対応できる様支援しています。新人スタッフは早期に訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て設備点検や消化器に使い方は熟知しており、避難訓練も頻繁に行っている。10月の訓練時にはオーナーを始め、近隣の方々と協力し合える体制と、ホーム側も非常食等の提供ができる体制にある事や避難所として提供できる事等を近隣の方へ発信しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様に対し人生の先輩としての敬意を忘れぬ様、配慮した上で当人にとって丁度良いと思っ下さる距離感を計りながら接しています。トイレ誘導時の声掛けもさりげなく行い、入浴介助も出来る限り同性介助を心掛けプライバシーを尊重しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が難しくなられた方には選択肢を挙げて試みる等しています。時には「オープン・クローズド」の質問形式など対応を変えて質問し自己決定の機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	多くの方は自己管理が困難となった方であるので、その方には、何をしたらよいか混乱する前に行動パターンの選択肢をこちらから提供する形を取る場合もあります。ご本人のペースは尊重し急がせたりは絶対せずに居室で過ごしたい希望も尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様は女性が多く、まだまだオシャレを楽しんで頂き、常に綺麗にして頂きたいというスタッフの思いもあることからメイク道具等を並べて楽しんだり実際に一緒にメイクをさせて頂く機会も多くあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昔、作った「すいとん」を作ってもらったり、「息子が好きだった餃子」を作る機会を持っています。食事の準備や後片付けも出来る方にはプランに入って支援しています。玉ねぎの皮むき、ニンジンの皮むきは入居者様にやって頂く事が多いです。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の水分量を細かく打ち込んでいます。不足しないように計算しています。入居者様の中には塩分制限や水分制限、嚥下機能低下した入居者様にはミキサー食で対応の方もおられますのでそれぞれに合った対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行っています。義歯の着脱、食べかす等の除去も介助や見守りで出来ています。口腔内の濯ぎも十分できていますが困難な方については介助して磨き直しをしています。デンタルにて週一で口腔ケアの依頼をしている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表からリズムを掴み、トイレ誘導し尿失禁を防ぐ事が出来ている方もおられます。尿意便意の無い方は時間を見て排泄のタイミングを見て誘導し、トイレでの排泄を支援しています。新入居者様の中にはリハパンを持って入居した方が現時点では使用せず布パンツに戻った方もおられます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動量が多い方だと思います。体操、散歩、腹圧をかけるリハビリ体操、便秘解消体操をメニューに取り入れています。水分も小まめに提供し不足の無いようにし、食事のメニューにはヨーグルトも多く出ています。個別に腸マッサージもしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴の希望があれば入って頂いているが入浴があまり好きではない入居者様が多数の為、二日～三日に一度は入れるように組んでいます。入浴剤等を工夫して楽しんで頂いています。個々に応じ介助量も調整し安全に配慮しながら自立支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床前のゆったりとした時間が持てるように配慮しています。テレビ鑑賞の時間も尊重しています。夜間も巡回や近くに居る事を伝え安心して頂き、程良い空調で安眠できる様にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	命を預かる者として入居者様の処方内容は職員全員が把握できる様往診記録に細かく記しており説明書も常に見える場所にファイルし確認しています。変更があった場合の症状の細かい記録もし、誤薬が無い様に三重チェック確認の上服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で力を発揮する事で「出来る」と言う自信が付き役に立っていると思え生きる力となっておられる。感謝の気持ちを口にする事で張り合いを持って頂いています。ご本人の趣味が発揮できる時間を設けております。ドライブや外出外食が気分転換になっていると思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援に関しては、コロナ禍による影響は大きいと思います。未だ自粛している状況です。出来る範囲で戸外に出向き季節を感じて頂く支援は頻繁に行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現時点では、コロナの影響にて自粛しています。希望された方には玄関先の自動販売機にてジュース等を購入して頂く程度です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に一度のホーム便りの中にご本人からの手紙を一筆箋ですが入れてさせて頂いています。ご希望があればいつでもホームから電話が出来る環境にあります。個人携帯電話をお持ちの方もおられます。ご友人と文通されている方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム周辺は緑に囲まれており静かな環境にあります。季節の花を身近で感じる事もでき、玄関やホーム内の庭やフロアにも花がある環境。ホーム内の空調もほど良く陽当たりも良く居心地の良さが感じられます。16年目の建物としては綺麗に使っている方で、居室内の整備も努力しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他廊下や玄関、庭にもベンチやソファが置かれ、陽当たりのよい寛ぎの空間で庭の花を見ながらゆったり出来るようになっています。昼食後等はそこで入居者様同士が歓談する姿が毎日見られています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様とレイアウトを考えながら配置しています。仏壇をお持ちになっておられる方もおられます。プライバシーが尊重される個室であり、好きな時に居室で休んで頂けるようになっています。最近は使い慣れた家具をお持ちになる方が少なくなっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの表記をし迷わず行ける様、工夫しています。食器の後片付け、洗面台の掃除、スタッフと一緒に床にクイックルワイパーを掛けて頂く等、自立支援しています。掃除道具置き場もわかるようにし、ご自身でお持ちになられます。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム横浜菅田

作成日：令和 3 年 4 月 12 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	○日常的な外出支援 「一人一人のその日の希望にそって、戸外に出掛けられる様、支援に努めている。また普段いけない様な場所でも本人の希望を把握し出掛けられる様にしている」点の改善と取り組み。	コロナ禍に於いて自粛を強いられる為、外出が厳しくなっている為、入居者様の希望をお聞きしたり推察して観光地等へ旅行した気分になって頂ける様、風景や名産、名物の写真を見て、話し、実際に名産を食べて頂くイベントを月に1～2回開催する。	入居者様全員に行きたい場所をお聞きし、またご家族に相談し場所を決める。 その土地の写真や名産の写真を観て楽しんで頂き、実際に名物のお菓子や料理を名上がって頂くイベントを月に1～2回開催し、外出気分を味わって頂く。	1ヶ月
2	23	○思いや意向の把握 「一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している」点の充実を図りホームでのサービスに対し満足度を上げたい。	限界のあるホームでの生活を如何に楽しんで頂き、満足して頂ける毎日になる為、色々なサービスを考え、更に入居者様の笑顔が増える様、スタッフ共に楽しむ。	帰宅願望の強い方には、出来るだけご家族とzoom面会や電話の回数を増やす為のご協力を頂く。また、スタッフとよりよい関係を築き、信頼関係が持てる様、接点を多く会話を増やす。その方の思いを把握し実現に向ける。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月